

# がんごの 赤ひげ



新入職員 入社式

## 目次 contents

P1	小児領域の取り組み 発達障害 気づきと支援体制	P5~6	障害のある子どもたちの「安心」と 「自分らしさ」と「居場所」
P2~3	小児リハビリの現状	P7	地域連携相談部
P4	小児療育に対する 臨床心理相談室の取り組み		



社会医療法人財団  
天心堂

【天心堂の医療目標】 良質にして包括的な保健・医療・福祉を地域に提供する そして100年を超えて生きつづける医療を実践する



# 小児領域の取り組み

## 発達障害 気づきと支援体制

小児科部長 佐藤 宏

「発達障害」という言葉がここ数年話題になっていて、耳にされた方も多いかと思います。

人とのコミュニケーションが下手で、社会でうまくやってゆけない悩みを抱えた人を対象にしていることが多いようです。

「発達障害」という医学用語は、元々成長する過程で身につけてゆくはずの能力が十分に使えるようになっていない状態を指していて、子どもの成長を見守る小児科で主に使われてきました。

「まだ歩かない」「言葉が出ない」「落ち着きがない」など乳幼児期に気になる子どもの成長を見守り、場合によっては訓練を行って能力の発達を促すよう努めてきました。

十年ほど前「学級崩壊」という言葉がマスコミを賑わせましたが、その元となった子どもたちに、

このような発達の問題を抱えたまま成長してきた子がいるのが分かってきました。

当院では昨年からは、発達に気になるところがある子どもたちの診療・リハビリに取り組んでいて、学校生活をはじめとする社会生活を楽しく過ごせる能力を身につける手助けを目指しています。

一昔前まで「職人気質」といわれる人が結構いました。人付き合いは悪いが、素晴らしい仕事をするという風な意味合いでしょうか。しかし、現代社会は「コミ障」という言葉があるように、他人とのコミュニケーション能力が低いと排除されてしまいます。

いろいろな個性を持った子どもたちが、その個性を活かしながら社会で生きてゆけるよう日々努力したいと思っています。



小児リハビリチーム

# 小児リハビリの現状

近年、知的障害や発達障害が広く世間に知られるようになり、子供さんへの早期支援の重要性が注目されています。個別性の高い支援やリハビリなどの対応が求められており、小児リハビリのニーズが高まっています。一方、県内で小児リハビリを行っている施設、医療機関は10施設程度であり多くの施設が初診を受けるまでに1ヶ月～1年待ちの状況です。これを受けて当院では地域に根ざした小児リハビリテーションを展開すべく令和元年6月より言語聴覚士(ST)、令和2年5月より作業療法士(OT)による小児リハビリを開始致しました。

## STによる小児リハビリ

### ①対象

健診や園、普段の生活の中で気になるところがある子供さん

### ②内容

個室で遊びの時間と課題の時間でメリハリをつけながら、対象の子供さんの苦手とする部分への訓練を行います。



## 訓練内容

【例】

### ①構音訓練

口や舌の動かし方を一緒に確認しながら訓練していきます。鏡を見せて正しい形を確認すること、舌圧子を使用して正しい位置を覚えてもらうことなど行っています。

### ②語連鎖課題

漫画の配列絵カードを使用し正しい順番に並べ、正しく並べることができたら漫画の説明を行ってまいります。漫画の動きを理解し助詞を用いて文章を構成することができるように促していきます。



## OTによる小児リハビリ

### ①対象

じっとしていない・注意が散漫・手先が不器用など健診や園、普段の生活の中で気になるところがある子供さん

### ②内容

訓練室で40分～60分を目安に子供さん（時には親御さんも）と一緒に訓練を行います。



### 訓練内容

#### ①直接的な訓練

身体の動かし方、指先の動きの向上、座る姿勢の見直しなどに対して、いろいろな遊具を利用しながら運動や認知、情緒の発達支援を行います。日常生活動作の獲得につなげていきます。

#### ②環境の調整

活動を通してその子が自宅や園、学校で落ち着いて過ごせるような環境作りの提案や、のびのびと過ごすための関わり方を家族や園、学校の先生方と一緒に検討を行います。

## まとめ

子育てに困ったとき、悩んだとき専門家のアドバイスを受けることで発達の特徴を家族が理解することから適切な支援がスタートします。一番困っているのは子供さん本人かもしれません。できないことを叱ったり、責めたりするだけでは良い解決方法にはなりません。ほめること、認めることでそれぞれの子に与えられた素晴らしい能力は開花されていくと考えています。

困っている事といっても十人十色です。まずは家族の方と子供さんが困っている事、悩んでいることを共有することから始めていきます。また、当法人内にはこども発達支援センター「一休さん」もありますので、法人内でも適切な支援のために密な連携を行っていきます。



# 小児療育に対する臨床心理相談室の取り組み

臨床心理士 長谷川 美枝子

近年、発達障害あるいは発達障害様の特性をもった、発達上「気になる児」の早期発見・早期支援の必要性が指摘されています。例えば、乳幼児の健康診査(1.6歳児、3歳児、5歳児)はそのための重要な機会の一つです。保育園や幼稚園においても、発達上「気になる児」の存在に早期に気づき、早期に適切な支援・指導をし、専門機関との連携を図ることは保育者の大事な役割になっています。

天心堂へつぎ病院の臨床心理相談室でも、発達上「気になる児」の早期発見・早期支援に努めています。また、保護者・家族の心のケアとサポートにも努めています。

具体的には、児・保護者に対して以下のことを実施しています。

まず、児に対して、次の3つを実施しています。

- ① 行動観察(観察を通して児の行動を分析、児と保護者との親子の関係性などを分析)。
- ② 心理検査(発達検査、知能検査、親子関係検査などをいくつか組み合わせて実施し、内面をデータとして測定)。
- ③ 検査結果に基づき、スキルトレーニングなどの具体的な支援の実施。

次に、保護者に対しては、概ね次の7つを実施しています。

- ① 児の心理検査の目的と方法などについての概要説明。
- ② 行動観察(保護者と児との親子の関係性などを分析)。
- ③ 児に関する情報の収集(その際、保護者の思いや気持ち、抱える問題を推察)。
- ④ 検査結果のフィードバック(保護者の思いや気持ちを配慮しながら結果を伝える)。
- ⑤ 児への具体的な支援の内容と、その目的と方法の説明。
- ⑥ 必要に応じての他機関との連携や紹介。
- ⑦ 保護者面接(抱えている問題やその背後にある要因の把握、パーソナリティや自我の程度の把握、心に表れる症状の把握など)。

また、臨床心理相談室では、保護者面接の結果、心の症状を呈していると思われる保護者・家族に対し、心のケアとサポートの一環として継続的なカウンセリングを行っています。

例えば、わが子の発達上の問題にショックを受け混乱したり、否認の状態が続いたり、抑うつ的な気持ちを抱えたりする時期があります。また、わが子の症状・状態を受け入れることができたとしても、支援を受けさせることを納得し行動を起こすまでの過程は、決してスムーズにいくものではありません。さらに、容易に解決しない問題は、慢性的なストレスとなっていく可能性があります。

カウンセリングがストレスの軽減や心の安定の一助となることができればと願っています。

なお、立場を同じくする者同士としての保護者会・セルフヘルプ・グループ(2ヶ月に1回)が「一休さん」で開かれています。微々たる働きですが、私も参加させていただいています。

今後も小児科ドクターや小児リハビリテーション科のスタッフ、こども発達支援センター「一休さん」のスタッフと一丸となって地域医療に尽力できればと願っています。

# 障害のある子どもたちの「安心」と「自分らしさ」と「居場所」

こども発達支援センター一休さん

事務長 鍛治矢 哲

障害のある子どもたちは日常の学校では、学歴社会の評価に緊張しながら過ごしたり、友だち関係に悩んだりしながら、精一杯頑張っている。

全国にある障害のある子どもたちの支援サービス事業所は2019年度で約1万3500カ所。2012年度の約3100カ所から急速に増加。利用者数は2019年9月で約22万8000人に達している。急激な成長の裏には保護者の期待の大きさがうかがえる。



一休さんのような障害児通所支援事業所では、支援の内容でそれぞれの特徴があるが、目指すところは、障害のある子どもたちの「安心」と「自分らしさ」と「居場所」ではないだろうか。

一休さんでは、幼児と学童に分けて小規模施設として支援をしている。幼児の時には、子どもと同時にお母さんのケアも行い日常から一緒に一休さんで時間を過ごしているお母さんも多く、同じ問題を抱える母親同士の触れあいであり、コミュニケーションの場にもなっている。

一方、小中学生になると、地域の友だちと一緒に遊んだりする事が難しく、自分を表現する事が更に難しい。子ども同士の関係性では、自分をうまく表現できずにトラブルになることも多い。同年代の友だちの中で障害のある子どもたちの「安心」と「自分らしさ」と「居場所」を提供するた



めにスタッフが、時には子どもたちの思いを代弁して、子どもに寄り添い調整している。

その様な中で、子どもからの話に正面から耳を傾ける事により、先生や家族には話せない事もスタッフには話せるという子どもも居る。親や先生との縦関係でもなく、友達同士の横関係でもない関係が職員には求められる。一休さんではあえて、利益重視ではなく、子どもに寄り添える環境を優先するために10名以下という小規模の運営を行っている。

但し、現状は、中学生までの受入であり、中学卒業後の受入が出来ていないことが今後の大きな課題として残っている。

2021年度の障害福祉報酬改定を迎える2020



年度、今後、どのような運営が求められるのか。前回の2018年度の、報酬改定は、「事業所の質をどう担保していくか」との議論の中で決まった経緯がある。重度の障害児を受け入れた場合は報酬を手厚くする仕組みが取り入れられた。

具体的には、自治体は利用申請があった子供の障害の程度について項目別に保護者に聞き取りを



行い点数化。重度の子供が半数以上いる事業所は「区分1」、半数未満の事業所は「区分2」として報酬に差を付けた。基本の報酬額は区分1で3～4%減、区分2では10～12%減る。その結果、事業所の2割が「廃止の危機」に陥り、2018年の改定導入が始まった4月以降、各地で混乱が出た。放課後デイの事業者でつくる「障害のある子どもの放課後保障全国連絡会」が210事業所に行った4～5月の調査では、約8割の事業所が低い報酬区分となり、大半が減収を見込んでいた。今後考えられる影響として、約5割が「人件費の削減」、約3割が「人員削減」や「活動内容の変更」と回答した。「廃止の危機」は約2割にのぼった。



決して、一休さんも例外ではなく、一気に厳しい経営状況に陥った。しかし、寄り添う支援で支えたいというスタッフの強い気持ちを尊重して、「人員削減」や「活動内容の変更」も行わず、一貫して方向性を変えることなく小規模の運営を行ってきた。その結果として、障害のある子どもたちの「安心」と「自分らしさ」と「居場所」を提供できる施設になっている。

2020年度では

- ①2019年度から開始したりハビリ農園による収穫の達成感と食育の展開
  - ②新たな事業となる小児リハビリとの連携による可能性の追求
  - ③高校生まで一貫して「安心」と「自分らしさ」と「居場所」を提供できる体制作り
  - ④成人後に陽光苑短期入所生活での家族のレスパイトができる可能性の研究
- に取り組み、より障害のある子どもたちと家族に寄り添った施設になるようにスタッフ一同で努力していきたい。





今年も桜が満開でした

## 地域連携相談部

みなさん、「地域連携相談部」をご存じですか??

へつぎ病院の「地域連携相談部」は、患者さんがスムーズに受診・入院できるように、また、住み慣れた地域へ退院できるように、医療機関、介護施設をはじめ、行政や福祉に関わる多くの施設との「つなぐ役割」を担っています。

主なスタッフは、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）、リハビリスタッフになります。

外来診察や、入院・退院のこと、福祉制度や施設の利用法等でお困りのことがありましたら、お気軽にご相談下さい。

天心堂へつぎ病院 地域連携相談部	
直通 電話 /FAX	電話：097-597-5812    FAX：097-597-3667
受付時間	8：30～17：30（土日・祝日を除く）
場 所	へつぎ病院 2階 カフェテリア前